

BUDŌ

NEWS

今月のニュース



三献の儀

日露交流年がロシアで開幕



国立体育大学にて甲冑着用体験



日本人学校にて演武披露

『ロシアにおける日本年』『日本におけるロシア年』開会式

日本武道館の「鏡開き式」を披露



白井日出男大將軍による鏡開き

5月23日から30日までの8日間、公益財団法人日本武道館は外務省の委託を受け、白井日出男日本武道館理事長を団長に、2018年「ロシアにおける日本年」「日本におけるロシア年」開会式において日本武道館「鏡開き式」を披露するため、総員19名の団員をロシア連邦モスクワ市へ派遣した。開会式は、5月26日、ボリショイ劇場本館において行われ、ウラジミール・プーチン・ロシア連邦大統領、安倍晋三日本国内閣総理大臣の開会挨拶によって華やかに開幕した。両首脳と日露双方の招待客約1000名が見守る中、日露各10名の鎧武者が出演して、厳かな日本伝統文化、日本武道館「鏡開き式」を海外で初めて披露。高い評価を得ると共に、好評を博し、大成功を収めて所期の目的を果たして無事帰国した。

本事業に伴い、我が国伝統の「武道」に対する理解を一層深めてもらうため、古武道2流派の参加を得て、ロシア連邦国立体育大学並びにモスクワ日本人学校で「武道文化セミナー」を実施し、大きな成果を上げた。

本派遣事業は、2016年12月の安倍総理とプーチン大統領の日露首脳会談において、両国の人的交流拡大のため、2018年を「ロシアにおける日本年」「日本におけるロシア年」として、交流事業を相互に開催することが決定されたことに始まる。これを受けて、昨年7月7日、帝国ホテル（千代田区）において日本側組織委員会委員長・高村正彦自民党副総裁（日本武道館会長）とロシア側のシュヴァロフ・ロシア連邦第一副首相が出席して、調印式が行われ、大枠が決定した。



開会式が行われたボリショイ劇場本館

両国の合意に基づいて、本年5月26日にロシア連邦モスクワ市のボリショイ劇場本館で開会式が行われることとなり、日本国側の演目の一つとして、日本武道館の「鏡開き式」が決定した。

日本武道館新春恒例の「鏡開き式」は約40分間の演目であるが、両国政府の要請で15分以内にとの制約の下、ボリショイ劇場の舞台に応じた演出を一から構成し直し、本年2月からは演出担当の株式会社博報堂と二人三脚で仕上げていった。

■5月22日 結団式・壮行会

出発前日の5月22日、日本武道館第二小道場において本事業派遣団の「結団式・壮行会」が行われた。

最初に総員19名の結団を行い、次に、高村正彦日本武道館会長（日本側組織委員会委員長）が壮行の言葉を述べ、来賓を代表して山下泰裕全日本柔道連盟会長が祝辞を述べた。続いて、白井日出男団長が団を代表して決意を述べ、乾杯の発声は川端達夫日本武道館常任理事が行い、三

藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が壮途を祝して万歳三唱で締めくくり、「結団式・壮行会」は盛会の裡に終了した。

■5月23日 出発

5月23日、派遣団は正午に成田空港を出発、約10時間のフライトの後、現地時間の午後3時30分、モスクワ市郊外シエレメチエヴォ国際空港に到着。時差はマイナス6時間である。

天候は快晴、気温は20℃を超える暑さで日射しも強く、初夏の氣候であった。空港を出てすぐ目に飛び込んできたのは3週間後に開幕を控えたサッカー・ワールドカップの広告である。

宿舎までは空港からバスで約1時間。モスクワ市中心部に近づくに連れて、スターリン様式の堅牢な建築物やロシア正教教会などが立ち並ぶのが目に付く。渋滞が予想されたが、大した渋滞もなくボリショイ劇場近くの宿舎、ホテル・メトロポリに到着した。



武道文化セミナーには約350名が来場



竹内流柔術腰廻小具足



荒木流拳法

■5月24日 武道文化セミナー

翌日24日は、午後3時からロシア連邦国立体育大学にて「武道文化セミナー」を実施した。

午前10時過ぎに到着、ジダーノフ副学長をはじめ数名の教員に出迎えられた。構内各所に本セミナーの広報チラシが貼られ、大学側の協力態勢が窺え、10名の学生がボランティアとして運営に協力してくれた。予定にないロシア・スポーツ省による演出打合せ・リハーサルが入り、困惑したが休む間もなく演武リハーサル、ロシア人通訳者との打合せなどを次々に行い、本番に臨んだ。

午後3時過ぎに開場。続々と観客が押し寄せ、15分後には350名ほどが入場して会場の約8割を占め、開会式が始まった。

開会式では、まず、ロシア連邦・スポーツ省のグリーンシン国際協力局長が、「本セミナーは、ロシアの日本武道研究者・愛好家にとって非常に有意義なものである」と称賛し、主催者の日本武道館、出演者へ歓迎の言葉を述べた。続いて、臼井団長

が主催者挨拶を行い、本派遣事業の意義や日露相互の国家的交流事業、日本武道について説明し、本セミナー開催に尽力されたロシア連邦・スポーツ省と大学関係者に対して謝意を述べた。最後に、大学のミハイロヴァ学長が、「4年前に本学で行われた『武道文化セミナー』に引き続いて開催できることを嬉しく思う。ロシアではしばらく禁止されていた空手がオリンピック競技となり、日本武道から多くを学びたい」と述べた後、記念撮影が行われた。

続いて、本派遣事業のプロジェクト事務局責任者である吉野喜信日本武道館振興部長が先陣を切り、本セミナーのプロローグとして「2020年東京オリンピック・パラリンピックについて」と題し、40年以上前に造られた旧江戸城跡に建つ日本武道館の歴史や1964年東京大会と2020年大会を比較しながら、新たに正式種目に加わった空手競技について、「新しいレガシーに向け準備は着々と進んでいる」と講演した。

続いて、荒木流拳法と竹内流柔術腰廻小具足の演武が行われ、迫力ある演武に会場からは拍手と感嘆の声



吉野喜信
日本武道館振興部長



ミハイロヴァ
ロシア国立体育大学学長



臼井日出男
日本武道館理事長（団長）



グリーン
スポーツ省国際協力局長



「甲冑着用体験」大学生が実際に甲冑を着用した



竹内秀将氏による講演

が沸き起こった。引き続き、竹内秀将氏による「日本の柔術 竹内流」と題した講演が行われた。柔道の源流となる竹内流の歴史と技法、活動状況を紹介しますと、体育大学の学生らしく真剣に聴講していた。

最後にワークショップ「甲冑着用体験」が行われた。日本甲冑武具研究保存会の菅野茂雄氏の解説により、高津装飾美術株式会社が着付けを担当し、学生2名がステージに上がって実際に甲冑を身に着けると、会場は大いに盛り上がった。

なお、本セミナーの様子は翌日には同大学ホームページ上で大々的に取り上げられていた。

■5月25日 前日リハーサル

本番前日、ボリショイ劇場本館でのリハーサルは、度重なるスケジュールの変更で様々な苦労があった。午前9時から甲冑・衣装等の搬入・準備の予定であったが、楽屋の準備がまだできていないとのこと、酒樽と、ロシアで製作した流れ旗の棒・纏台組み立て等、準備のみ

を行い、午後2時、改めて出演者とボリショイ劇場へ。

出演者は日本側10名、ロシア側10名の20名、ロシア側の10名はロシア武道連盟の協力で集まってくれたはずも空手の有段者である。

本番と同じ衣装と甲冑を着けて行うドレスリハーサルの準備を開始。

午後4時、全員甲冑を着けてドラム・タオ（和太鼓）のリハーサル終了を待った。その間、吉野部長はロシア人出演者に対し、「皆さんはロシアを代表するサムライである。最後までサムライの精神を持って立派にこの任務をやり遂げてほしい。皆で成功させよう」と鼓舞した。

リハーサルは予定より2時間遅れで始まり、午後7時過ぎまで行ったが、その間も急遽大統領府の視察で休止命令が入ったりで進まない。一旦、鎧兜を脱いで休憩を入れ、普段着のまま午後8時半からリハーサルを再開したが、今度は照明や音響の確認作業のため中断を余儀なくされ、終わったのは深夜の11時過ぎ。急かされて退館となった。そんな状況下でも、ロシアの仲間が最後まで所作を一所懸命に覚えてくれた。



開会式・会場の様子 (写真提供：内閣広報室)

ロシアにおける日本年 日本におけるロシア年 2018 ГОД РОССИИ В ЯПОНИИ ГОД ЯПОНИИ В РОССИИ 2018



開会式・両首脳挨拶 (写真提供：内閣広報室)



関の声

■5月26日 開会式本番

一夜明けていよいよ開会式本番。

ボリシヨイ劇場の警備態勢は昨日とは比べものにならないほど厳重になった。事務局と高津装飾美術の先発隊は12時半にホテルを出発。劇場の入館には2カ所ですペースポートと荷物検査を受けた。後発隊はロシア人出演者と午後1時半にホテルを出発。リハーサル室で、主役の白井大將軍と貴嶋長柄所役を中心に全員で最終確認を約1時間、念入りに行った。

予定の午後7時開会に備え、4時半から衣装と鎧の着付けを開始し、6時には全員の着付けを終えた。あとは兜を着けるだけの状態である。すると、首脳会談が1時間以上遅れているとの情報が入った。入場時間も遅れ、日露双方の招待客約1000名も待ちわぶる。待つこと2時間、午後9時5分前に漸くプーチン大統領と安倍首相が到着し、すぐに「開会式」が始まった。

両首脳挨拶の次が「鏡開き式」で出演者の緊張が高まる。挨拶の後、幕が閉まって舞台転換。両首脳は正面のロイヤルボックス席へ移った。

客席の照明が落とされた。まず、ロシア人俳優セルゲイ・シュニリョーロフ氏が舞台中央に登場し、「カガミビラキシキ……」と解説のMCが静かに始まった。MCが終わり、幕がゆっくりと開いた。舞台中央に白井大將軍が鎮座し、煌びやかな甲冑を纏った20名の鎧武者が現れ、場内が息を呑んだ。鎌倉時代の古式に則り、式は「三献の儀」から始まった。長柄所役の貴嶋氏、高坏所役の笠井氏、提子所役の長瀬事務局職員

の息が合つて見事に終了。山場の「鏡開き」では、白井大將軍が気合共々鏡樽を打ち割って、大きな拍手が沸き起こった。最後に鎧武者全員で「関の声」を上げ、威風堂々の「行軍」に拍手喝采で幕を閉じた。

両首脳の前で「鏡開き式」を見事に披露し、白井団長以下、全団員は国の威信を掛けた大役を果たした。

この模様は、「国営・ロシア文化テレビチャンネル」でロシア全土に内容全般が放送されたほか、テレビニュースでも紹介された。

「開会式」終了後の午後11時、レセプションがボリシヨイ劇場内の大ホ



本番前に出演者全員で記念撮影



ステージ裏楽屋の様子



三献の儀



ボリショイ劇場内大ホールのレセプション会場にて
(写真提供：内閣広報室)

ールで行われ、安倍首相、プーチン大統領の挨拶の後、日本側組織委員会委員長・高村正彦日本武道館会長が挨拶と乾杯の発声を行い、日露の招待者250名が祝杯をあげた。派遣団からは白井団長、貴嶋団長秘書、吉野部長が出席した。

で、最後まで観劇することはほとんどなく、さらに、レセプションに出席して挨拶することは数例あるのみ。特に日本武道館の「鏡開き式」は、美しく荘厳な鎧兜での伝統的な儀式とシュニョーロフ氏の解説が相俟って、文化テレビチャンネルでの放送と共に、ロシア国民に非常に分かりやすく伝えられ、好印象を与えた」とのことであった。



児童・生徒謝辞



甲冑着用体験



永田会長が甲冑について講演を行った



竹内流柔術腰廻小具足の演武披露



日本人学校の児童・生徒全員と

■ 5月27日

前日の本番を終え、午前0時退館。午前9時に再びポリシヨイ劇場へ赴いて荷物の搬出を行った。その後は肩の荷を下ろして終日オフ。クレムリンやモスクワ大学などを見学し、英気を養った。

■ 5月28日 日本人学校・日本大使館表敬訪問、解団式

午前10時から、モスクワ日本人学校で「武道文化セミナー」を行った。これは母国日本の歴史と伝統文化「武道」への理解を一層深めてもらう目的で開催し、小・中学生の児童・生徒と保護者約150名が参加した。

開会式では、白井団長の主催者挨拶に続いてモスクワ日本人学校・石川賢まさる学校長の歓迎の辞があった。併せて、日本武道館刊行書籍の贈呈式を行い、白井団長から石川校長へ「目録」が手渡された。

早速、古武道2流派の演武が披露され、子ども達は初めて目にする技に驚き、目を輝かせていた。続いて、永田仁志日本甲冑武具研究保存会会長が「武士の華―甲冑のいろは―」と題して、日本の甲冑の特徴とその歴史について、資料を示しながら講演を行った。ワークショップでは、代表者9名が実際に鎧と兜を着け、自国の歴史と文化を肌で体験し、終始歓声が絶えなかった。

閉会式では、児童代表から謝辞があり、大盛況の裡に終了した。



ガバソフ
ロシア武道連盟事務局長



上月豊久
駐ロシア日本国
特命全権大使



小澤 仁
駐ロシア日本国
特命全権公使



石川 賢
モスクワ日本人学校校長



解団式の模様



在ロシア日本国大使館を表敬訪問

「ロシアにおける日本年」「日本におけるロシア年」開会式
日本武道館「鏡開き式」一行派遣事業 団員名簿
(2018年5月23日～30日 ロシア連邦・モスクワ市)

1	団 長	白井日出男	(公財) 日本武道館	理事長
2	団長秘書	貴嶋美知子		
3	事務局	吉野 喜信	(公財) 日本武道館	振興部長
4	事務局	和田 健	(公財) 日本武道館	振興部普及課副主事
5	事務局	長瀬まり子	(公財) 日本武道館	振興部普及課主任
6	団 員	永田 仁志	(一社) 日本甲冑武具研究保存会	会長
7	団 員	菅野 茂雄	(一社) 日本甲冑武具研究保存会	常務理事
8	団 員	日野 廣生	(一社) 日本甲冑武具研究保存会	常務理事
9	団 員	棟方 貞夫	(一社) 日本甲冑武具研究保存会	常務理事
10	団 員	笠井 洋介	(一社) 日本甲冑武具研究保存会	会員
11	団 員	笠井レーナ	(一社) 日本甲冑武具研究保存会	会員
12	団 員	細野 桂一	荒木流拳法	目録
13	団 員	竹内 秀将	竹内流柔術	相伝家代行・師範代
14	団 員	竹内 勢至	竹内流柔術	相伝家代理・師範代
15	団 員	千崎 元	高津装飾美術 (株)	文化事業部第一課 課長
16	団 員	吉原 信哉	高津装飾美術 (株)	文化事業部第一課
17	団 員	小谷田泰弘	高津装飾美術 (株)	資料室 室長
18	団 員	山元 宏友	高津装飾美術 (株)	文化事業部第一課
19	記 録 員	後閑 信弥	(株) クエスト	制作部

「鏡開き式」ロシア側出演者

1	副将軍役	メニシコフ・アレクサンドル	ロシア全式空手道連盟	六段
2	諸 将 役	フョドロフ・ユーリ	ロシア全式空手道連盟	五段
3	諸 将 役	ソローキン・ヴィタリ	ロシア全式空手道連盟	五段
4	諸 将 役	バビン・ミハイル	ロシア全式空手道連盟	二段
5	諸 将 役	ナザロフ・ドミートリー	ロシア全式空手道連盟	二段
6	諸 将 役	カチュソフ・ゲオルギー	ロシア全式空手道連盟	二段
7	諸 将 役	グルシャク・アレクセイ	ロシア全式空手道連盟	二段
8	諸 将 役	プーティイ・アレクセイ	ロシア全式空手道連盟	五段
9	諸 将 役	アルチュニャン・ヴァニク	ロシア全式空手道連盟	六段
10	諸 将 役	アンティカル・アンドレイ	ロシア全式空手道連盟	初段

午後3時からは、在ロシア日本国大使館を表敬訪問。白井団長以下8名が大使館を訪れ、小澤仁特命全権公使と歓談、今回の派遣事業の成功と苦勞談義に花を咲かせた。

午後7時から宿舎近くのレストランで解団式を行った。多忙な中を大使館から上月大使をはじめ3名の幹部館員と「鏡開き式」で協力いただいたロシア武道連盟ガバソフ事務局

以上、本派遣事業は滞りなく全日程を終了し日露両国の友好親善の大役を果たし所期の目的を達成した。

(文責・ロシア派遣事業プロジェクト事務局 和田 健)

長が駆けつけてくれ、団員と派遣事業の成功を祝った。

翌29日、ロシアを出国し、30日に全員、無事帰国した。

一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・
少林寺拳法などなごた銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!

日本の武道

日本武道館 編

好評発売中!

日本武道館 編

日本の武道

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書

(B5判・上製・箱入・526頁)

目次

序章

刊行の辞：塩川正十郎 日本武道館・日本武道協議会会長
刊行にあたって：松永 光 日本武道館理事長
武道のすすめ：養老孟司 東京大学名誉教授
武道憲章（「武道憲章」英訳文）（ごも武道憲章）
カラー口絵（日本武道館、9武道、10日武協30年のあゆみ）

第1章 日本の武道

第1節 日本の武道…………… 杉江正敏 大阪大学教授
第2節 武士道から武道へ…………… 菅野寛明 東京大学大学院教授
第3節 武道の近代化…………… 嘉納治五郎師範の教え…………… 村田直樹 講道館図書資料部長
第4節 武道の魅力…………… 大保木輝雄 埼玉大学教授

第5節 学校武道の歴史…………… 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道の教育力…………… 菅野 純 早稲田大学教授
第7節 日本武道館…………… (財)日本武道館

第2章 日本の古武道

第1節 日本の古武道…………… 横瀬知行 古流武術研究者
第2節 古武道の技と心……………

第3章 現代の武道

第1節 柔道…………… (財)全日本柔道連盟
第2節 剣道…………… (財)全日本剣道連盟
第3節 弓道…………… (財)全日本弓道連盟
第4節 相撲…………… (財)日本相撲連盟
第5節 空手道…………… (財)全日本空手道連盟
第6節 合気道…………… (財)合気道連盟
第7節 少林寺拳法…………… (財)少林寺拳法連盟
第8節 なぎなた…………… (財)全日本なぎなた連盟
第9節 銃剣道…………… (社)全日本銃剣道連盟

第4章 組織・研究機関

第1節 日本武道協議会……………
第2節 全国都道府県立武道館協議会……………
第3節 日本武道学会……………
第4節 日本古武道協会……………
第5節 武道学科等設置大学…………… ① 国際武道大学 ② 国士館大学
③ 東海大学 ④ 日本体育大学 ⑤ 鹿屋体育大学 ⑥ 中京大学
⑦ 天理大学 ⑧ 筑波大学

第5章 資料編

第1節 役員名簿・組織図……………
第2節 日本武道協議会武道功労者一覧……………
第3節 全日本選手権大会優勝者一覧……………
第4節 年表「武道・近代百四十歩の歩み」中村民雄 福島大学教授
第5節 学校体育における武道の変遷 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道主要参考図書…………… (現職・法人名は刊行時)

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

山神眞一 著

(香川大学教授・同学部長、医学博士、剣道教士八段)

役に立つ少年剣道指導法

好評発売中

少年剣道指導の現場で役に立つ月刊「武道」好評連載を単行本化。現代の少年剣道が抱える様々な問題点に対して、長年教育現場で培った筆者の視点から解決の糸口を探っていく。少年剣道指導者必読の一書。
付録のDVDには、写真では伝え切れなかった実技関連の部分を収録時間115分を超える映像で紹介。

解説DVD付属!



A5判・並製・
256頁・DVD付・
本体2400円＋税

目次

第一章 一眼子どもと少年剣道の今を眼る
現代の子どもの体と心を見つめ直す／少年剣道の現状と課題／少年剣道に対する保護者の声

第二章 二足少年剣道の足跡とこれから
現代剣道復活の道程とこれからの少年剣道／剣道の国際化と少年剣道の未来／少年剣道拡大の秘密を探る

第三章 三胆指導者の胆力を求めて
少年剣道における指導者の在り方／文武両道と少年剣道／コミュニケーション力と人材育成の極意

第四章 四力技の力を学ぶ
剣道のアイスブレイキング／礼法について

／立礼と座礼／木刀・竹刀を使用した構えと素振りの対人的指導法／切り返しの際的指導法／基本打突の打ち方と打たせ方／連続技の打ち方と打たせ方／払い技の打ち方と打たせ方／引き技の打ち方と打たせ方

第五章 残り

海外での剣道事情／中学校における剣道授業
あとがき



編集・発行 公益財団法人 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

平成30年度全日本学生柔道優勝大会

男子

東海大が3年連続、23回目の優勝

女子

5人制山梨学院大が5連覇、3人制早稲田大が3連覇

平成30年度全日本学生柔道優勝大会（男子67回・女子27回）は6月23日・24日に日本武道館で開催された。男女とも全国9地区の予選を勝ち抜いたチームが学生日本一を目指し、白熱した試合を展開した。

男子は、東海大学が筑波大学との代表戦の接戦を制し、優勝の最多記録を更新する23回目の優勝を飾った。

女子5人制では、山梨学院大学が龍谷大学を2―1で降し、前人未到の5連覇の快挙を成し遂げた。また、女子3人制では、早稲田大学が明治国際医療大学に2―0で勝利し、3連覇を達成した。

■男子（62チーム出場）

東海大は、東京予選から本戦準決勝までの9戦63試合で失点はわずかに1と、抜群の安定感で決勝進出を決める。もう一方では、筑波大が準決勝を3―3の内容差で国士舘大戦に競り勝ち、3年ぶりの決勝進出を果たした。決勝は3年前と同様の対戦となり、その時は永瀬貴規（現・

旭化成）を擁した筑波大が初優勝を飾っている。



先鋒戦は、世界選手権団体戦73kg級メンバーの東海大・立川と筑波大・佐々木（卓）が対戦。立川は体重差30kg差を感じさせず組み勝つも、ポイントが奪えず、引き分ける。

次鋒戦は、東海大松村と筑波大・石川が対戦。石川は、155kgの巨漢・

松村を前後に崩しながら攻め、指導2まで追い詰めるも、最後まで投げ切ることができず、引分に終わる。

五将戦は、東海大・奥野と筑波大・関根の対戦。関根は192cmの奥野に対し、担ぎ技を中心に試合を組み立てる。対する奥野は長身を活かし、上から圧力をかける。奥野が指導1、関根が指導2で終了し、引分。

中堅戦は、東海大・太田と筑波大・上野。東海大ポイントゲッターの太田は奥襟を持ち、技を仕掛け、上野を追い詰める。太田が残り時間23秒に大外刈で一本勝ち、東海大が先勝。

三将戦は、成長著しい東海大・後藤と何としても勝利したい筑波大・田嶋が対戦。田嶋が背負投、内股で攻めるも、受けの強い後藤が凌ぎ切り、引分。東海大はリードを守る。

副将戦は、東海大キャプテンの香川と筑波大4年・鳥羽が対戦。香川に押され気味の鳥羽に、3分が過ぎた頃、2つ目の指導が与えられる。勝って優勝を決めたい香川だったがそのまま終了。引分で大将戦へ。

大将戦は、東海大・村田と筑波大キャプテン佐々木（健）の対戦。あとがない佐々木は序盤から村田を攻め、開始27秒に裏投げを放つもポイントにはならず。佐々木は、その後も攻め続け、1分36秒、再度の裏投げで村田に一本勝。筑波大が同点に追いつき、勝負は代表戦に。

代表戦は、それぞれ一本勝の東海大・太田と筑波大・佐々木（健）の対決。佐々木は大将戦同様、先に技を出し、主導権を握る。しかし、体格で勝る太田が1分37秒に大外刈か



代表戦＝東海大・太田彪雅（手前）は大外刈から内股への連絡技で豪快に一本勝ち、優勝を決めた



中堅戦＝東海大・太田彪雅（右）が先制し、ポイントゲッターとしての役割を果たす



大將戦＝筑波大・佐々木健志（下）が裏投げを決め、筑波大が同点に追いつく

優勝が決まった瞬間、歓喜に湧く東海大選手席

ら内股への連絡技で豪快に一本勝ち、東海大23回目の優勝を決める。4年前の7連覇時のような黄金期の再来を告げる勝利となった。

▽決勝

	東海大	1代	1	筑波大
先鋒	立川	新	引分	佐々木卓摩
次鋒	松村	颯祐	引分	石川竜多
五将	奥野	拓未	引分	関根聖隆
中堅	太田	彪雅○	大外刈	上野翔平
三将	後藤	龍真	引分	田嶋剛希
副将	香川	大吾	引分	鳥羽潤
大将	村田	大祐	裏投○	佐々木健志
代表	太田	彪雅○	内股	佐々木健志

【大会結果・男子】

- ◎優勝＝東海大
- 準優勝＝筑波大
- ▽第3位＝天理大
- 国士舘大
- ▽優秀選手＝太田彪雅（東海大）、村田大祐（東海大）、佐々木健志（筑波大）、関根聖隆（筑波大）、白川剛章（天理大）、飯田健太郎（国士舘大）、長谷川優（山梨学院大）、藤原崇太郎（日本体育大）、田中源大（明治大）、岩崎恒紀（中央大）

女子5人制(33チーム出場)

決勝戦は、大会初となる5連覇を狙う山梨学院大と、初めて決勝にコマを進めた龍谷大の対戦。両校は昨年の準決勝で対戦し、この時は山梨学院大が4-1で龍谷大に勝利している。山梨学院大の5連覇か、雪辱に燃える龍谷大の初優勝かに注目が集まった。



先鋒戦は、開始50秒に龍谷大・黒木が組み際の足払で技有を奪う。反撃に出る山梨学院大・大和久は残り32秒に大内刈で技有を奪い返し、引分に持ち込む。

次鋒戦は、山梨学院大・谷川と龍谷大・中内の対戦。谷川が開始10秒に電光石火の内股で技有を奪い、素



女子5人制決勝・次鋒戦＝山梨学院大・谷川美歩（手前）が先制

早く寝技に移行し、合技による一本勝で山梨学院大が先制する。

中堅戦では、アジア競技大会70kg級日本代表の山梨学院大・新添と、ここまで3つの一本勝と調子の良い龍谷大・米澤が対戦。新添が残り時間1分34秒に体落で技有を奪い、そのまま抑込で米澤に合技一本勝。貫禄の違いを見せ、山梨学院大がリードを広げ、優勝に王手をかける。

続く副将戦、山梨学院大・瀬戸口と龍谷大・富田戦。富田が序盤から攻勢に出る。試合が動いたのは2分46秒。瀬戸口が大外刈で技有を奪う。追い込まれた富田がここから怒



女子5人制決勝・中堅戦＝山梨学院大・新添左季（上）が抑込で勝利

涛の反撃。3分15秒に払腰で技有を奪い、同点に追いつく。さらに残り18秒のところで仕掛けた内股で2つ目の技有を奪って、逆転の合技一本勝。土壇場で勝利し、大将戦に望みを繋いだ。

大将戦は、山梨学院大キャプテンの泉と、勝って代表戦に持ち込みた龍谷大・村井の対戦。両者の意地とプライドがぶつかり合う一進一退の攻防が展開される。激しい技の応酬にも両者ポイントを奪うことができず、試合終了。

この瞬間、山梨学院大が前人未だの5連覇を達成。連勝記録をどこま



5連覇を達成した山梨学院大学

で更新するか、会場にいた観客の期待が膨らんだ瞬間でもあった。

▽決勝

山梨学院大 2-1 龍谷大
先鋒 大和久友佳 引分 黒木七都美
次鋒 谷川美歩○合技 中内柚里
中堅 新添左季○合技 米澤夏帆
副将 瀬戸口菜南 合技○富田彩加
大将 泉 真生 引分 村井惟衣

【大会結果・女子5人制】

- ◎優勝 山梨学院大
- 準優勝 龍谷大
- ▽第3位 桐蔭横浜大 国士館大
- ▽優秀選手 新添左季（山梨学院大）、富田彩加（龍谷大）、杉山歌嶺（桐蔭横浜大）、池絵梨菜（国士館大）



女子3人制(30チーム出場)

決勝戦は、3連覇を狙う早稲田大と創部2年目で関西大会2連覇中の明治国際医療大の対戦となった。

早稲田大は2回戦から登場し、2-0、1-0、2-0と順当に勝ち進む。一方の明治国際医療大は1回戦から接戦を制し、初の決勝へ。

先鋒戦は、早稲田大・滝澤と明治国際医療大・林の対戦。互いに厳しい組手争いで相手に良いところを持たせず、両者ポイントのないまま引分に終わる。

中堅戦の早稲田大・小野と明治国

際医療大・上田の試合は、小野が開始9秒、小外刈で技有を奪い、主導権を握る。終始攻め続けた小野が貴重な先制点をあげる。

勝負の行方は大将戦へ。早稲田大・渡邊と明治国際医療大・三苫の



女子3人制決勝・中堅戦＝早稲田大・小野華菜恵(上)が技有を奪う

試合は、渡邊が一瞬の隙をつき、三苫の懐に潜り、三苫を回転させて技有を奪う。そのまま抑込に入り、合技一本で勝利。

早稲田大は、本大会で一人も失点することなく3連覇を達成した。



女子3人制決勝・大将戦＝早稲田大・渡邊聖未(上)が優勝を決める

▽決勝

早稲田大 2-0 明治国際医療大
先鋒 滝澤美咲 引分 林美七海
中堅 小野華菜恵○優勢 上田莉圭
大将 渡邊聖未○合技 三苫桃子

【大会結果・女子3人制】

- ◎優勝 早稲田大
- 準優勝 明治国際医療大
- ▽第3位 九州共立大 創価大
- ▽優秀選手 渡邊聖未(早稲田大)、三苫桃子(明治国際医療大)、網内菜々子(九州共立大)、矢部瑞希(創価大)

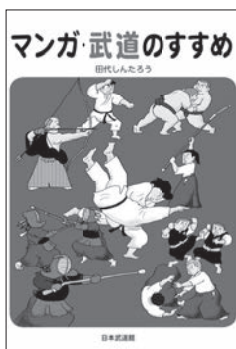
日本武道館の単行本

漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著

合気道は多田宏、磯山博、菅沼守人先生と、
東北大学学友会合気道部を掲載！

マンガ・武道のすすめ

大人も子どもも読んで読んで楽しく、
ためになる武道教養マンガ。



B5判・236頁

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課まで
TEL 03-3216-5147

好評発売中

『人、人、人、
すべては人の質にある……』
少林寺拳法創始者・宗道臣先生に
直接手ほどきを受けた著者入魂の
武道教育論！

可能性の

種子たち

『^{はく}魄』は生きるための生命力――
『^{こん}魂』は人間を善に導く原動力――

魂魄(こころ)が健全に育てば、豊かな感性や
意思力、行動力などが備わり、やがて得るであ
る多くの知識を、智慧とすることができると。
子どもたちの躍動の一つひとつが、可能性の種
子の芽生えなのである。

――魂魄(こころ)を育てる――

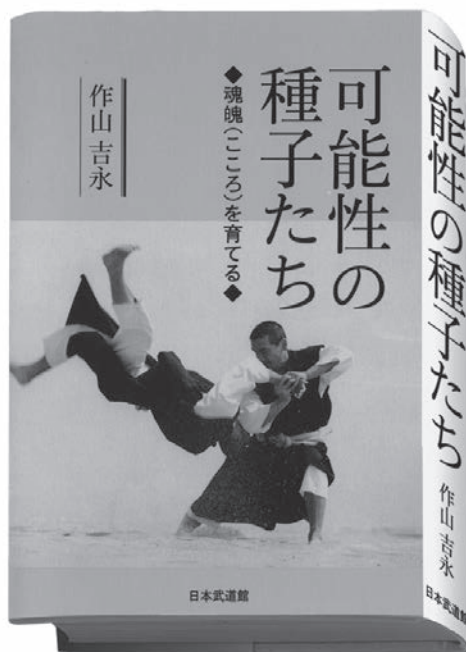
金剛禅総本山少林寺茨城高萩道院長

作山吉永 著

(四六判・上製・338頁)

主な目次

- 第1章 少林寺拳法／第2章 直心是道場／第3章 師事／
- 第4章 マイ・アメリカ／第5章 可能性の種子、芽吹く／
- 第6章 嵩山少林寺／第7章 魂魄(こころ)を育てる／
- 第8章 新しい扉を開く



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本



日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット
(B5判・上製・DVD付・336頁)



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)



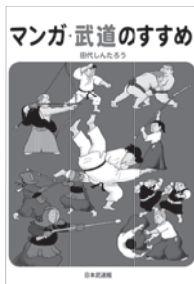
大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

マンガ・武道のすすめ



(B5判・236頁)

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・
銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、
すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。



少林寺拳法は4話を掲載！





男子決勝＝矢野貴之（右）対福居義久

女子決勝＝藤崎薫子（左）の小手が決まる

全日本学生剣道選手権大会 / 全日本女子学生剣道選手権大会

矢野貴之、藤崎薫子が初優勝

全日本学生剣道東西対抗試合 / 全日本女子学生剣道東西対抗試合

男女ともに西軍が勝利

第66回全日本学生剣道選手権大会、第52回全日本女子学生剣道選手権大会、第65回全日本学生剣道東西対抗試合、第12回全日本女子学生剣道東西対抗試合（主催Ⅱ全日本学生剣道連盟、毎日新聞社）は7月7日・8日の両日、日本武道館で開催された。

学生剣道の日本一を決める選手権大会で、男子は矢野貴之（やの たかゆき、国士館大4年）、女子は藤崎薫子（ふじさき かおる、明治大3年）がそれぞれ初優勝を果たした。東西対抗試合では、男子・女子ともに西軍が勝利した。なお、男子西軍の勝利は10年ぶりである。通算成績は、男子西軍が17勝47敗（1引分）、女子西軍が7勝5敗となった。

■選手権大会

7日に女子（90名出場）、8日に男子（176名出場）の試合が行われた。トーナメント方式で、試合時間は5分間の三本勝負。時間内に勝負が決しない場合は、一本勝負による時間無制限の延長戦で争われた。

男子

▽準決勝

準決勝に勝ち上がったのは、関東

学生剣道選手権準優勝の丸山大輔（中央大）、福居義久（国士舘大）、9月に行われる世界剣道大会の代表選手で昨年3位の星子啓太（筑波大）と矢野貴之（国士舘大）の4名。

丸山対福居。試合開始4分、丸山

が足を止めた瞬間に福居が面を決め、一本先取。その後、丸山も激しく攻めるが一本にならず、試合終了。福居の決勝進出が決定した。

星子対矢野。試合が動いたのは開始3分20秒。互いに面を繰り出し、

一瞬の差で矢野の面が決まり、一本。あとがない星子は一気に攻勢に出ようとするが逆転ならず、そのまま試合終了。矢野が初の決勝戦へ駒を進めた。

▽決勝

決勝戦は矢野対福居。国士舘大の先輩・後輩対決となった。両者、手の内を知っているためか、決め手にかける。試合開始3分、矢野が福居の技を避けるために後ろに下がった際、足をつり、動けなくなつたため試合は中断。一時は試合再開が難しく思われたが、再び矢野が試合場に戻り、再開。そして、試合開始から4分、福居が一瞬足を止めたところ

ろに矢野が引き面を決め、一本先取。しかし、二本目開始の直後、福居が小手を決め、同点となる。決着がついたのは試合終盤、矢野が福居の隙を見て、小手を決め、一本。念願の初優勝を飾った。

◎男子優勝Ⅱ矢野貴之選手（国士舘大）



「優勝できて本当に嬉しく、ホッとした気持ちです。準決勝の星子選手との試合から全身筋肉痛で疲労が溜まっていました。福居は同じ学校でいつも一緒に練習しているため、お互いの強み・弱みを知っていました。なので、技は狙っていたというよりも自然に出ました。途中で取り返されましたが、強気で挑みました。また、父が本大会で準優勝していたので、父を超えるには優勝しないとダメだと思っていました。優勝できて本当によかったです」

女子

▽準決勝

準決勝に勝ち上がったのは、藤崎薫子（明治大）、井手璃華子（国士舘大）、佐藤みのり（法政大）、桑野こゆき（日体大）の4名。

藤崎対井手。両者、序盤から技を仕掛けるもなかなか技が決まらなかった。延長戦で、藤崎が井手の隙を狙ってうまく面を決め、一本。藤崎の決勝進出が決定した。

佐藤対桑野。こちらも序盤から激しい攻めを展開するも、有効打がなく、延長戦へ。試合が動いたのは試合開始から35分、桑野が居着いた瞬間に佐藤が引き胴を決め、一本。長時間の試合に決着をつけ、決勝進出を果たした。

▽決勝

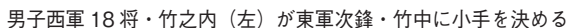
決勝は藤崎対佐藤。序盤から激しい攻防を繰り広げる。しかし、どちらも決め手に欠け、延長戦に突入する。その後、互いに技を仕掛けるも旗はなかなか上がらない。決着がついたのは、試合開始から16分、佐藤が面に飛ぶ出端に、藤崎が小手を決め、試合終了。藤崎の初優勝が決定した。

◎女子優勝Ⅱ藤崎薫子選手（明治大）



「この大会には初めて出場しました。今回は、出場できなかった先輩の分もしっかり明治大のプライドを背負い、優勝を狙っていたので、とても嬉しかったです。法政大の佐藤選手とは、練習試合でも何度か剣を交えたことがあり、思い切った技を出せたことが、結果につながったと思います。小手は狙ってはいませんでした。隙があつたら技を出そうと思っていました。今まで負け続けても頑張ってきたので良かったです。今後は（秋の）団体戦に向け気持ちを新たにこれから頑張っていきます」





7日に女子、8日に男子の試合が行われた。男子は東西各20名、女子は各10名が出場。試合時間は3分間、三本勝負の勝ち抜きで争われ、時間内に決しない場合は、引分とし、大将の試合のみ時間無制限の本勝負による延長戦が行われた。

本勝負による延長戦が行われた。

東軍先鋒・星子啓太（筑波大）が先鋒を制するも、西軍次鋒・鴨井龍希（京都産業大）に引分。西軍18将の竹之内歩（環太平洋大）が2人を抜くが、負けじと東軍17将・丸山大輔（中央大）も2人を抜く。その後、14将・平野青地（専修大）、12将・山田将也（明治大）が共に1人を抜き、リードを広げた。しかし、西軍9将・橋本耕平（天理大）が4人を抜き、一気にリードは西軍に移る展開に。東軍も3将・初田彪（筑波大）、副将・岩切勇樹（国際武道大）がそれぞれ1人を抜き、追い上げを見せるが、差はなかなか縮まらない。そして、東軍大将・矢野と西軍副将・川上の対決。あとがない矢野は果敢に技を攻めるが、旗は上がらない。

東 軍																								西 軍（二人残して勝利）							
大將		副將		3將	4將	5將	6將	7將	8將	9將	中堅		11將	12將	13將		14將	15將	16將			17將	18將	次鋒		先鋒		氏 名	学年	学校名	各試合結果
矢野 貴之	※岩切 勇樹		初田 彪	染矢棕太郎	遠藤 練	百田 尚眞	安井 奎祐	岸上 哲也	白石 慧	中根 悠也		今野 零	山田 将也	脇坂 奨	平野 青地	志賀 誠弘	持原 光希		※丸山 大輔	竹中 洸貴		※星子 啓太									
4	4		4	4	4		4	6	3	4		3	4	3	4	3	4		3	2	1		2								
国士舘大	国際武道大		筑波大	中央大	北海道教育大岩見沢校		早稲田大	秋田大	新潟大	流通経済大		東北福祉大	明治大	北海道教育大岩見沢校	専修大	東北学院大	法政大		中央大	福井工業大		筑波大									
	×	⊖				×	×	×				⊕		⊕		×	×	×				⊗コ									
	⊖			⊕					⊗	⊗	⊗				×	×	×	コメ		⊖コ											
大將	副將	3將	4將	5將	6將	7將	8將				9將	中堅	11將	12將	13將	14將	15將	16將	17將			18將	次鋒	先鋒							
牧島凖太郎	川上 晃史	水野 秀章	中山 裕	柏戸 祐哉	長友 聖弥	岡本 健吾	山崎 仁平				※橋本 耕平	惣木 堅太	丸山 錬	嶋村 悠	松尾 基太	高道 悠生	園井 稜人	※瀬尾洸太郎	森田 啓介			※竹之内 歩	鴨井 龍希	高山 祐貴							
4	4	4	4	4	4	4	4				4	4	3	4	4	4		3	3		3	2	1								
鹿屋体育大	関西大	別府大	大阪体育大	朝日大		日本経済大	関西大	鹿屋体育大			天理大	広島大	立命館大		香川大	福岡教育大	芦屋大	中部大	愛知大	中京大			環太平洋大	京都産業大	近畿大						



女子西軍大将・松本（右）が東軍大将・小川に攻める



女子西軍8将・玉置（右）が東軍次鋒・波邊に面を決める

大)、8将の玉置万優(近畿大)がそれぞれ1人を抜き、リードする。その後、西軍6将の小角春菜(大阪体育大)が東軍5将の伊東麻里絵(北海道教育大岩見沢校)を破り、リードを広げる展開に。しかし、東軍3将・竹中美帆(筑波大)が2人抜きを果たし、両軍互角となる。副将戦は時間内に決着がつかず、勝負の行方は大将戦へもつれ込む。東軍大将・小川萌々香(日本体育大)と西軍大将・松本智香(鹿屋体育大)の大將戦。序盤、小川が松本に何度も面を仕掛けていくが、松本はそれを

そして、矢野の隙を見て、川上が小手を決め、一本。矢野は一本を取り返そうと技を仕掛けるも、川上はそれをうまく躲す。そして、試合はそのまま終了となり、西軍が10年ぶりの優勝を果たした。

◎西軍大将Ⅱ牧島凜太郎選手(鹿屋体育大)
「西軍のチームが自信を持って戦い抜いてくれました。それが勝利につながったのだと思います。チームの皆には感謝の気持ちでいっぱいでありがとうと伝えたいです」

女子

西軍次鋒の森岡真実(環太平洋

うまく捌く。試合の決着は延長戦へもつれ込んだ。決着がついたのは試合開始から3分30秒、両者打ち合いの中、小川が上段に構えようとする瞬間に面を打ち込み、一本。西軍の優勝が決定した。

◎西軍大将Ⅱ松本智香選手(鹿屋体育大)
「試合に勝って本当に良かったという安心感でいっぱいです。個人戦の結果があまりよくなく、悔しかったので、東西戦で勝ちたいという思いでした。最後一試合だけでよいという状況を作ってくれたのは、皆のおかげだと思い、感謝しています」

選手権大会結果

◇男子Ⅱ①矢野貴之(国士舘大) ②

福居義久(国士舘大) ③星子啓太

(筑波大・丸山大輔(中央大)

◇女子Ⅱ①藤崎薫子(明治大) ②佐

藤みのり(法政大) ③井手璃華子

(国士舘大・桑野こゆき(日本体

育大)

東西対抗試合結果

◇男子Ⅱ西軍が2人残しで勝利(西

軍17勝4敗1引分)

◇女子Ⅱ西軍が大將戦で勝利(西軍

7勝5敗)

東軍				西軍(大将戦により勝利)			
氏名	学年	学校名	各試合結果	氏名	学年	学校名	
先鋒 小林 彩	3	北海道教育大岩見沢校	×	先鋒 坪井 香歩	1	環太平洋大	
次鋒 渡邊 柚	4	山形大	○	※森岡 真実	3	環太平洋大	
8将 小松 加奈	2	明治大	×	玉置 万優	3	近畿大	
7将 河田 茜	4	新潟大	○	開 菜々実	4	朝日大	
6将 ※佐藤みのり	3	法政大	×	※小角 春菜	4	大阪教育大	
中堅 伊東麻里絵	4	北海道教育大岩見沢校	○	川村 瑠李	4	中京大	
4将 齋藤 桂子	4	東北学院大	×	津田 友佳	4	関西学院大	
3将 ※竹中 美帆	3	筑波大	○	横澤 めい	4	大阪体育大	
副将 小島 彩加	4	国際武道大	×	※松本 智香	4	鹿屋体育大	
大将 小川萌々香	4		×				
延長							
大将							

◇全日本女子学生剣道東西対抗試合(監督・助監督は男子と同じ)

名前上部の※は優秀選手賞

山神眞一 著

(香川大学教授・同学部長、医学博士、剣道教士八段)

役に立つ少年剣道指導法

好評発売中

少年剣道指導の現場で役に立つ月刊「武道」好評連載を単行本化。
現代の少年剣道が抱える様々な問題点に対して、長年教育現場で培った筆者の視点から解決の糸口を探っていく。少年剣道指導者必読の一書。
付録のDVDには、写真では伝え切れなかった実技関連の部分を収録時間1115分を超える映像で紹介。

解説DVD付属!



A5判・並製・
256頁・DVD付・
本体2400円＋税

目次

第一章 一眼／子どもと少年剣道の今を眼る
現代の子どもの体と心を見つめ直す／少年剣道の現状と課題／少年剣道に対する保護者の声

第二章 一足／少年剣道の足跡とこれから

現代剣道復活の道程とこれからの少年剣道／剣道の国際化と少年剣道の未来／少年剣道拡大の秘密を探る

第三章 三胆／指導者の胆力を求めて

少年剣道における指導者の在り方／文武両道と少年剣道／コミュニケーション力と人材育成の極意

第四章 四力／技の力を学ぶ

剣道のアイスブレイキング／礼法について／立礼と座礼／木刀・竹刀を使用した構えと素振りの対人的指導法／切り返しの際的指導法／基本打突の打ち方と打たせ方／連続技の打ち方と打たせ方／払い技の打ち方と打たせ方／引き技の打ち方と打たせ方

第五章 残心

海外での剣道事情／中学校における剣道授業
あとがき



編集・発行 公益財団法人 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

◎好評発売中

筑波大学教授 酒井利信 著

四六判・上製・346頁・本体2400円＋税

刀剣の歴史と思想

刀剣を単なる武器としてではなく、
神聖なものとして捉える思想とは何か――



題字揮毫―鹿島神宮 鹿島則良 宮司

日本独自の展開をみせてきた刀剣に関する思想を、中国、朝鮮など、東アジアにまでルーツをたどりながら、確かな史料を基に考察。古事記・日本書紀に語られる神話、平家物語・太平記などにみられる三種の神器にまつわる記述、鹿島新當流、示現流に伝わる伝書といった歴史的文献を読み解き、日本刀剣思想のオリジナリティを浮かび上がらせる。

目次

終章	序章
第一章 近世以降の刀剣思想	第二章 刀剣思想の源流
第二章 近世以降の刀剣思想	第三章 神話的イメーシの形成
第三章 近世以降の刀剣思想	第四章 天地を繋ぐ剣
第四章 近世以降の刀剣思想	第五章 信仰のなかの刀剣思想
第五章 近世以降の刀剣思想	第六章 近世以降の刀剣思想
第六章 近世以降の刀剣思想	第七章 近世以降の刀剣思想
第七章 近世以降の刀剣思想	第八章 近世以降の刀剣思想
第八章 近世以降の刀剣思想	第九章 近世以降の刀剣思想
第九章 近世以降の刀剣思想	第十章 近世以降の刀剣思想
第十章 近世以降の刀剣思想	第十一章 近世以降の刀剣思想
第十一章 近世以降の刀剣思想	第十二章 近世以降の刀剣思想
第十二章 近世以降の刀剣思想	第十三章 近世以降の刀剣思想
第十三章 近世以降の刀剣思想	第十四章 近世以降の刀剣思想
第十四章 近世以降の刀剣思想	第十五章 近世以降の刀剣思想
第十五章 近世以降の刀剣思想	第十六章 近世以降の刀剣思想
第十六章 近世以降の刀剣思想	第十七章 近世以降の刀剣思想
第十七章 近世以降の刀剣思想	第十八章 近世以降の刀剣思想
第十八章 近世以降の刀剣思想	第十九章 近世以降の刀剣思想
第十九章 近世以降の刀剣思想	第二十章 近世以降の刀剣思想
第二十章 近世以降の刀剣思想	第二十一章 近世以降の刀剣思想
第二十一章 近世以降の刀剣思想	第二十二章 近世以降の刀剣思想
第二十二章 近世以降の刀剣思想	第二十三章 近世以降の刀剣思想
第二十三章 近世以降の刀剣思想	第二十四章 近世以降の刀剣思想
第二十四章 近世以降の刀剣思想	第二十五章 近世以降の刀剣思想
第二十五章 近世以降の刀剣思想	第二十六章 近世以降の刀剣思想
第二十六章 近世以降の刀剣思想	第二十七章 近世以降の刀剣思想
第二十七章 近世以降の刀剣思想	第二十八章 近世以降の刀剣思想
第二十八章 近世以降の刀剣思想	第二十九章 近世以降の刀剣思想
第二十九章 近世以降の刀剣思想	第三十章 近世以降の刀剣思想
第三十章 近世以降の刀剣思想	第三十一章 近世以降の刀剣思想
第三十一章 近世以降の刀剣思想	第三十二章 近世以降の刀剣思想
第三十二章 近世以降の刀剣思想	第三十三章 近世以降の刀剣思想
第三十三章 近世以降の刀剣思想	第三十四章 近世以降の刀剣思想
第三十四章 近世以降の刀剣思想	第三十五章 近世以降の刀剣思想
第三十五章 近世以降の刀剣思想	第三十六章 近世以降の刀剣思想
第三十六章 近世以降の刀剣思想	第三十七章 近世以降の刀剣思想
第三十七章 近世以降の刀剣思想	第三十八章 近世以降の刀剣思想
第三十八章 近世以降の刀剣思想	第三十九章 近世以降の刀剣思想
第三十九章 近世以降の刀剣思想	第四十章 近世以降の刀剣思想
第四十章 近世以降の刀剣思想	第四十一章 近世以降の刀剣思想
第四十一章 近世以降の刀剣思想	第四十二章 近世以降の刀剣思想
第四十二章 近世以降の刀剣思想	第四十三章 近世以降の刀剣思想
第四十三章 近世以降の刀剣思想	第四十四章 近世以降の刀剣思想
第四十四章 近世以降の刀剣思想	第四十五章 近世以降の刀剣思想
第四十五章 近世以降の刀剣思想	第四十六章 近世以降の刀剣思想
第四十六章 近世以降の刀剣思想	第四十七章 近世以降の刀剣思想
第四十七章 近世以降の刀剣思想	第四十八章 近世以降の刀剣思想
第四十八章 近世以降の刀剣思想	第四十九章 近世以降の刀剣思想
第四十九章 近世以降の刀剣思想	第五十章 近世以降の刀剣思想
第五十章 近世以降の刀剣思想	第五十一章 近世以降の刀剣思想
第五十一章 近世以降の刀剣思想	第五十二章 近世以降の刀剣思想
第五十二章 近世以降の刀剣思想	第五十三章 近世以降の刀剣思想
第五十三章 近世以降の刀剣思想	第五十四章 近世以降の刀剣思想
第五十四章 近世以降の刀剣思想	第五十五章 近世以降の刀剣思想
第五十五章 近世以降の刀剣思想	第五十六章 近世以降の刀剣思想
第五十六章 近世以降の刀剣思想	第五十七章 近世以降の刀剣思想
第五十七章 近世以降の刀剣思想	第五十八章 近世以降の刀剣思想
第五十八章 近世以降の刀剣思想	第五十九章 近世以降の刀剣思想
第五十九章 近世以降の刀剣思想	第六十章 近世以降の刀剣思想
第六十章 近世以降の刀剣思想	第六十一章 近世以降の刀剣思想
第六十一章 近世以降の刀剣思想	第六十二章 近世以降の刀剣思想
第六十二章 近世以降の刀剣思想	第六十三章 近世以降の刀剣思想
第六十三章 近世以降の刀剣思想	第六十四章 近世以降の刀剣思想
第六十四章 近世以降の刀剣思想	第六十五章 近世以降の刀剣思想
第六十五章 近世以降の刀剣思想	第六十六章 近世以降の刀剣思想
第六十六章 近世以降の刀剣思想	第六十七章 近世以降の刀剣思想
第六十七章 近世以降の刀剣思想	第六十八章 近世以降の刀剣思想
第六十八章 近世以降の刀剣思想	第六十九章 近世以降の刀剣思想
第六十九章 近世以降の刀剣思想	第七十章 近世以降の刀剣思想
第七十章 近世以降の刀剣思想	第七十一章 近世以降の刀剣思想
第七十一章 近世以降の刀剣思想	第七十二章 近世以降の刀剣思想
第七十二章 近世以降の刀剣思想	第七十三章 近世以降の刀剣思想
第七十三章 近世以降の刀剣思想	第七十四章 近世以降の刀剣思想
第七十四章 近世以降の刀剣思想	第七十五章 近世以降の刀剣思想
第七十五章 近世以降の刀剣思想	第七十六章 近世以降の刀剣思想
第七十六章 近世以降の刀剣思想	第七十七章 近世以降の刀剣思想
第七十七章 近世以降の刀剣思想	第七十八章 近世以降の刀剣思想
第七十八章 近世以降の刀剣思想	第七十九章 近世以降の刀剣思想
第七十九章 近世以降の刀剣思想	第八十章 近世以降の刀剣思想
第八十章 近世以降の刀剣思想	第八十一章 近世以降の刀剣思想
第八十一章 近世以降の刀剣思想	第八十二章 近世以降の刀剣思想
第八十二章 近世以降の刀剣思想	第八十三章 近世以降の刀剣思想
第八十三章 近世以降の刀剣思想	第八十四章 近世以降の刀剣思想
第八十四章 近世以降の刀剣思想	第八十五章 近世以降の刀剣思想
第八十五章 近世以降の刀剣思想	第八十六章 近世以降の刀剣思想
第八十六章 近世以降の刀剣思想	第八十七章 近世以降の刀剣思想
第八十七章 近世以降の刀剣思想	第八十八章 近世以降の刀剣思想
第八十八章 近世以降の刀剣思想	第八十九章 近世以降の刀剣思想
第八十九章 近世以降の刀剣思想	第九十章 近世以降の刀剣思想
第九十章 近世以降の刀剣思想	第九十一章 近世以降の刀剣思想
第九十一章 近世以降の刀剣思想	第九十二章 近世以降の刀剣思想
第九十二章 近世以降の刀剣思想	第九十三章 近世以降の刀剣思想
第九十三章 近世以降の刀剣思想	第九十四章 近世以降の刀剣思想
第九十四章 近世以降の刀剣思想	第九十五章 近世以降の刀剣思想
第九十五章 近世以降の刀剣思想	第九十六章 近世以降の刀剣思想
第九十六章 近世以降の刀剣思想	第九十七章 近世以降の刀剣思想
第九十七章 近世以降の刀剣思想	第九十八章 近世以降の刀剣思想
第九十八章 近世以降の刀剣思想	第九十九章 近世以降の刀剣思想
第九十九章 近世以降の刀剣思想	第一百章 近世以降の刀剣思想

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158



藤道健二萩市長による聖地宣言



有備館



河村建夫日本武道館常任理事

明治維新「薩長土肥」150年祭記念 旧萩藩校明倫館「有備館」 顕彰記念式典を挙

明治維新「薩長土肥」150年祭記念・
旧萩藩校明倫館「有備館」顕彰記念
式典が、6月23日に山口県萩市の旧
萩藩校明倫館「有備館」で開催され
た。

有備館は、旧萩藩校明倫館の剣術
や槍術稽古を行った道場であり、藩
士の稽古場としてだけでなく、他
国から剣術の修行に來た者のため
の「他国修行者引請場」でもあった。
文久2年（1862）に土佐の坂本
龍馬が來萩した際には、有備館で稽
古を行ったといわれ、道場の柱には
坂本龍馬や高杉晋作の刀傷が残って
いる。

この式典は、萩・明治維新150年記
念事業の一つである、旧萩藩校明倫
館「有備館」剣道大会（主催Ⅱ旧萩
藩校明倫館「有備館」剣道大会実行
委員会、後援Ⅱ日本武道館ほか）の
一環として実施された。

有備館顕彰記念式典は、12時30分に開会した。神事、住吉神社お舟謡保存会によるお舟謡の披露に続いて、河村建夫日本武道館常任理事・衆議院議員が挨拶に立った。

「明治維新150年の記念すべき年に薩長土肥の方々が集まり、このような素晴らしい式典が開かれますことを心からお慶び申し上げます。この明倫館は水戸の弘道館、岡山の閑谷学校と並んで江戸期の日本三大学府であり、ここ有備館には坂本龍馬先生、吉田松陰先生も立ち寄られています。記念すべき今大会が、2回、



横山実行委員会会長（左）と井上萩市剣道連盟顧問（右）

3回と続きまして、日本の武道の発信の地として、ますます有備館の名が轟きますように一層の発展を心から祈念いたします」次に、藤道健二萩市長が挨拶を述べた。

「旧萩藩校明倫館『有備館』は長い歴史の中で育まれ、今日の世代に守り伝えられてきた萩市の貴重な財産であり、また国の財産であります。明治維新150年祭を飾る価値ある大会を企画・運営していただきました関係各位に御礼申し上げます」続いて、藤道萩市長が声高らかに



薩長土肥国体女流剣士模範試合

に「ここ旧萩藩校明倫館『有備館』を剣術の聖地として宣言いたします」と聖地宣言を行った。

その後、来賓祝辞、来賓紹介と続き、式典は閉会した。

式典終了後は明倫小学校体育館に移動し、鹿児島県・山口県・高知県・佐賀県の国体成年女子代表選手による薩長土肥国体女流剣士模範試合、江島良介剣道教士八段による明倫館塾（講演会）の後、剣道錬成技術指導が行われた。

また、翌日には第1回高杉晋作旗有備館剣道大会が開催された。

旧萩藩校明倫館『有備館』剣道大会 6/23(土)・24(日)
～薩長土肥の剣士が集結～

未来に通じる秋の伝統・精神文化
学ぶから

有備館剣術・聖地宣言

東の「東武館」・西の「有備館」

日本武道館からのメッセージ
三藤 芳生 常任理事・事務局員
本年は明治維新150周年。最も輝かしい歴史を築き、高杉晋作がゆかりをのびた。その心は「後の世に、西の有備館」。

6月23日(土) 6月24日(日)

6月23日(土)
・開会式典
・位置特刊「有備館」
・薩長土肥・国体女流剣道模範試合
・国体成年女子代表選手による「有備館」塾（講演会）
・国体成年女子代表選手による「有備館」塾（講演会）

6月24日(日)
・平安文化館長内一本場
・第一回 高杉晋作旗有備館剣道大会

「はぎ時事」6月15日掲載の大会広告。三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長がメッセージを寄せた

◎横山賢治・旧萩藩校明倫館『有備館』剣道大会実行委員会会長

「明治維新150年を記念するにあたり、この有備館があまり表に出ていないと感じたので、高校時代にかけて一緒に稽古をしていた萩市剣道連盟顧問の井上先生とこの大会の企画を行いました。また、長州をはじめ薩長土肥が明治維新を実行できたのは、一致団結したからだと思います。今はそれが言葉だけになっている印象があります。萩の有備館に多くの関係剣士が集まり、共に研鑽することに意義があると感じています」

なぎなたという素晴らしい武道を
一人でも多くの人に伝えたい



戦前の薙刀術教員養成所に始まり、戦後の
苦難の復興期を経て、現在の隆盛に至るま
で、著者自身が歩んだなぎなたの道を振り
返りながら、なぎなたの素晴らしさを謳い
上げた会心作。なぎなた愛好者のみならず、
武道指導者必読の一書。

◇第1章多感な少女時代 ◇第2章薙刀術教
員養成所 ◇第3章卒業 ◇第4章なぎなた
教師◇第5章全日本なぎなた連盟結成 ◇第
6章財団法人化 ◇第7章体協加盟と国体参
加 ◇第8章生涯続くなぎなたの道



私の歩んだ

なぎなたの道

元全日本なぎなた連盟顧問

徳永千代子 著

(四六判・上製・252頁)



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ<http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本

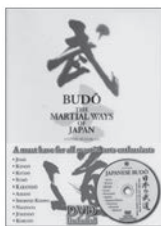


日本の武道

日本武道館 編

(B5判・上製・箱入・526頁)

一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携書。



BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集:アレキサンダー・ベネット

(B5判・上製・DVD付・336頁)

武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版がついに刊行! 海外武道修業者・関係者におすすめしたい決定版。



武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

(四六判・上製・410頁)

臨床心理学の立場から、子どもを育む武道の可能性、教育力に迫る。子どもをより良く伸ばすための知恵と珠玉の言葉を満載。



贈る言葉

なぎなた範士からのメッセージ

月刊「武道」編集部 編

(四六判・上製・366頁)

全国各地のなぎなた範士25名が、後世のなぎなた人へ贈るメッセージ。近代なぎなたの史料ともなる各範士の歩みを綴った半生記集。



武道伝書を読む

天理大学教授

湯浅 晃 著

(四六判・上製・348頁)

『風姿花伝』、『兵法家伝書』、『五輪書』など、代表的な武道伝書をわかりやすく読み解き、読者のためになるメッセージを贈る。



マンガ・ 武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

(B5判・並製・236頁)

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に直接インタビュー取材し、武道の良さ、素晴らしさをおもしろく、わかりやすく描く。



なぎなたに夢を馳せて

沖縄県なぎなた連盟会長
国際なぎなた連盟副会長

長濱 文子 著

(四六判・上製・356頁)

沖縄におけるなぎなた成長の道のりを、連盟会長として組織運営・人材育成に携わってきた著者が振り返る。



大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

(四六判・上製・376頁)

傘寿を超えた武道界の先達30名が贈る、後輩への熱きメッセージ。修行時代から現在までの足跡を辿る、後世に残す記録集。

平成 30 年度中学校武道授業（柔道）指導法研究事業

安全かつ効果的な
指導内容を検討

膝車の模擬授業

■ 1 日目（6月15日）

平成 30 年度中学校武道授業（柔道）指導法研究事業（主催Ⅱ日本武道館・全日本柔道連盟・日本武道協議会、後援Ⅱスポーツ庁、協力Ⅱ練馬区立貫井中学校）は、6月15、17日の3日間、味の素ナショナルトレーニングセンター（東京都北区）において実施された。

10月に実施する第9回全国中学校（教科）柔道指導者研修会において講師となる研究者15名が集まり、安全かつ効果的な指導内容、留意事項などを明確にすることを目的に、指導法発表、研究協議が行われた。

開講式では、はじめに中里壮也全日本柔道連盟専務理事・事務局長が主催者挨拶に立ち、「平成12年から27年までの15年間で高校生の柔道競技者数が半減しています。柔道には、危険、きつい、辛い、苦しいというマイナスイメージがあります。中学校の柔道授業をきっかけに、柔道は楽しい、面白いものだと思ってもらい、柔道を続けてもらえれば日本の柔道界としても大変良いことだと思いますので、この事業に大きな



練馬区立貫井中学校柔道部生徒 40 名（右）の協力を得て実施された



中里壮也全日本柔道連盟
専務理事・事務局長



木村昌彦研究者による後ろ受け身の指導



模擬授業の説明をする鮫島康太研究者



三藤芳生日本武道館
常任理事・事務局長

期待を持っております」と述べた。

続いて、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局長が挨拶し、「中学校武道必修化も7年目ということで、順調に推移しております。当初は採用される武道種目の多様化が予測された中、現在も柔道の実施率が6割強あるということで、先生方の

これまでの努力に敬意を表したいと思えます。中学校武道必修化の成功は、柔道の成功にかかっております。教員自身ができることと、生徒に指導して理解してもらうことでは、大きな差があります。技は示範

することができますが、授業では説明を加えねばなりません。その説明は言語表現です。言葉で説明する必要があるため、柔道指導を言語化

していくことが大きな課題です。本事業を、柔道の素晴らしさをどのように伝えるかということ、中学校保健体育科教員の指導力の向上に結び付けていっていただきたいと思います」と述べた。

開講式終了後、高橋健司研究者より本事業の方針として、「昨年の研修会参加者アンケート結果から、参加者は柔道経験者も未経験者も、柔

道技術の指導方法と、授業の進め方のスキルを欲していることが改めてわかった。今年度は初心に立ち返り、限られた時間の中で安全かつ効果的な指導内容、手順、留意事項などを明確にし、本年秋の研修会にて伝達することを目的とする」ことが確認された。

その後、各研究者より、2日目に発表する指導内容を説明し、初日を終えた。

■2日目（6月16日）

研究協力者として参加した練馬区立貫井中学校柔道部（40名）を生徒に見立て、各研究者が指導法の発表を行った。発表に対し意見を出し合い、指導内容、手順、留意事項、使用する文言（柔道用語）などを議論した。

午前中は、中学1年生を対象とした授業（初心者指導）を想定して、高橋健司研究者が基本動作・受け身（前回り受け身以外）、鮫島康太研究者が前回り受け身・膝車、米田輝彦研究者が大腰、梶谷宗範研究者が体落とし、遊佐英徳研究者が固め技全般の指導法をそれぞれ発表した。



研究者が指導方法について議論



鮫島康太研究者（右）による前回り受け身の指導

高橋健司研究者の発表では、基本動作として、単独で行う自然体、自護体、歩み足、継ぎ足を指導した。受け身の指導では「畳をたたいた後、弾いて手を畳から離すのと、たたいたまま手を畳に押しつけるのは、どちらが痛い？」といった、生徒に考えさせる問いかけも重要であるとした。発表後には、横受け身を取るときの目線の方向について議論となり、「どの方向であつても頭部を守ることでいいので、どれが良いかということとは問題ではない。生徒に考えさせることが重要」との意見があり、研究協力者が再度実践の上、研究協議を重ねた。

遊佐英徳研究者の発表では、はじめに抑え込みの条件は、①受が仰向けであること、②受と取が概ね向かい合っていること、③取が受から束縛を受けていない（脚や胴体を絡まれている）ことを確認し、抑え方は指定せず、個々に考えさせた。また、逃れ方としてエビ、逃れさせないための抑え込みの強化として腋締めの補助運動も紹介した。発表後、エビを指導する際の畳を蹴る足について議論となり、高橋健司研究者より、蹴る足を指定する指導方法「エビの内足、外足」、「逆エビの内足、外足」が実践例として紹介された。午後は、中学2・3年生への指導（経験者指導）を想定して、森英也研究者が手技・腰技・足技、坂井武彦研究者が連絡技・変化技、福井孝研究者が投げ技の自由練習、與儀幸朝研究者が固め技の自由練習をそれぞれ発表した。



マンガ・武道の偉人たち

漫画家・別府大学教授 田代しんたろう 著

B5判・302頁・本体 1,000円+税

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯をマンガで学べる。

収録偉人一覧：嘉納治五郎（柔道）、高野佐三郎（剣道）、阿波研造（弓道）、双葉山（相撲）、船越義珍（空手道）、植芝盛平（合気道）、宗道臣（少林寺拳法）、園部秀雄と三田村千代（なぎなた）、鶴沢尚信（銃剣道）

ご注文・お問い合わせ 日本武道館 月刊「武道」編集部

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3 TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<http://www.nipponbudokan.or.jp> インターネットでのご注文は、「武道館単行本」と検索！

■3日目（6月17日）

最終日は、2日目に行った発表内容を基に、第9回全国中学校（教科）柔道指導者研修会の当日の流れ、最終日までのカリキュラムの詳細、講師の分担などを話し合った。

新学習指導要領に準拠しているか、柔道を専門としない参加者に対し何を提示できるかなどに留意しながら議論が進められた。

指導方法に対し、さまざまな意見が出て議論されたが、木村昌彦研究者より「細かな指導方法や表現については、安全であることを前提に、現場に委ねる部分も必要ではないか」との意見があがった。また、研修会当日に生徒役となる予定の国際武道大学学生（柔道部）の活用方法についても議論がなされた。

最後に、熊野真司研究者と田中裕之研究者の研修会における講義内容を皆で確認した。

研修会の目的としては参加者の意欲・関心などを高めることと知識を深めることと定め、全体の流れを考慮し、田中研究者の講義を初日、熊野研究者の講義を最終日とすることが確認された。

閉講式では、高橋進研究者が研究事業の講評を述べ、主催者挨拶として松尾貴之日本武道館振興課長がご協力いただいた練馬区立貫井中学校へ御礼を述べ、指導法研究事業の全日程が終了した。

（文責・日本武道館振興課）

【研究者一覧】

高橋 進（大東文化大学常務理事・学務局長）

高橋健司（練馬区立貫井中学校主幹教諭）
田中裕之（全日本柔道連盟参事）

磯村元信（東京都立秋留台高等学校校長）

木村昌彦（横浜国立大学教育学部教授）

向井幹博（講道館道場指導部課長）

鯨島康太（筑波大学附属高等学校教諭）

森 英也（群馬県立伊勢崎興陽高等学校教頭）

與儀幸朝（鹿児島大学講師）

熊野真司（練馬区立練馬中学校校長）

福井 学（相模原市教育委員会教育局学校教育部学校教育課指導主事）

梶谷宗範（宇和島市立津島中学校教諭）

遊佐英徳（仙台市立大沢中学校教諭）

坂井武彦（福岡市立日佐中学校校長）

米田輝彦（合志市立西合志南中学校教諭）



心技体 MONTHLY MAGAZINE THE "BUDO" 人を育てる総合誌

月刊

武道

武道界のオピニオンリーダー誌

教育・健康・教養を三本柱に、役に立つ「武道人間学」の情報を満載！



毎月28日発行 定価545円（税込）
年間購読6,540円（税・送料込）



好評連載中

四股探求の旅

高砂部屋 マネージャー 増田哲博

第一回 「腰を割る」とは？

四股の基本の構えが「腰割り」です。四股は、腰割りの構えから、足を上げ、腰割りの構えに戻る動作を左右交互にくりかえします。なぜ腰を割るのか？ そもそも腰を割るとはどのようなことなのか？ 日本人にとって、相撲にとって、「腰」という言葉はどういう意味をもつのか？ 相撲は腰で取れ、という格言が示す通り、相撲の基本は「腰」です。その「腰」を「割る」ことについて探求していきます。



好評連載中

道場を訪ねて

古流武術研究家 横瀬知行

日本人の心根を考える

鎌倉女子大学教授 東京大学名誉教授 竹内整一

武道の可能性を探る

各界有識者がさまざまな角度から武道に光を当てる。

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学客員教授 田代しんたろう

文士の一分

作家 増田俊也

好評発売中

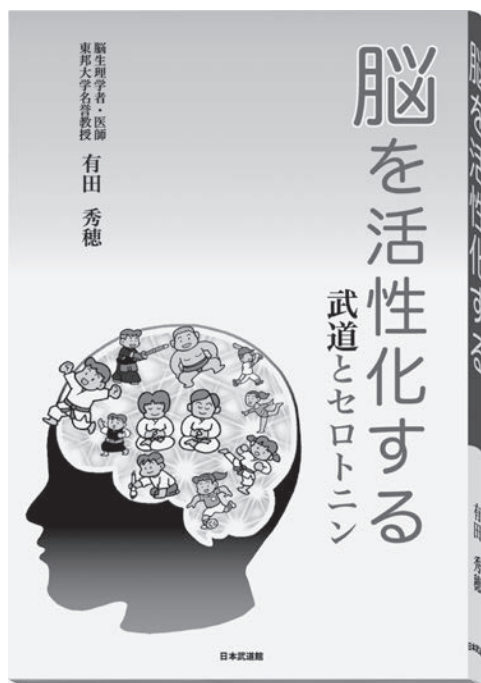
脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授

有田 秀穂 著

脳を活性化する

武道とセロトニン

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もが
できる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1,600円+税

有田 秀穂
(ありた・ひでほ)

昭和23年(1948)東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。



主な内容

第1部 脳の活性化とは

坐禅とセロトニン

ストレスとしごき

空海はセロトニン活性の達人

『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング

沢庵の「不動智」とワーキングメモリー

不動明王と心の三原色

『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識

悪夢を消すには?

精進料理とセロトニン合成

「茶の湯」とセロトニンの生活

「自然に体が動いた」を脳科学で解く

勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する

「武道の礼法」は社会脳を育む

相撲の「四股」は品性を育む

書道も心技体の人間修行

アンドロゲンと闘争心

日本の祭にはセロトニンがたっぷり

スキップとオキシトシン

空手の稽古は坐禅修行に通じる

脳は「丹田呼吸法」をどう操るか

試合における最適な覚醒状態

サイエンスは「気」をどこまで解明したか

仙人術を脳科学する

第2部 対談「武道で脳を活性化しよう」

日本武道館会長

松永 光

東邦大学名誉教授

有田 秀穂

：他

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

好評発売中！

公益財団法人講道館道場指導部課長
向井幹博
(むかい みきひろ) 著

収録時間170分を超える
解説DVD付属！

役に
立つ

少年柔道指導法

DVD付き

役に
立つ
少年柔道指導法

向井 幹博



少年柔道指導の現場で役に立つ好評連載を単行本化。付録のDVDには、写真では伝わりにくかった部分を映像で紹介。
また、少年柔道が抱える様々な問題点を、講道館所蔵の柔道文献から、解決の糸口を探っていく。

〈目次〉

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 第1部 解説編 | 第九章 少年柔道の未来のために |
| 第一章 少年柔道は柔道指導の原点 | 第二章 実技編 |
| 第二章 基本動作の指導 | 第一章 礼法の指導 |
| 第三章 技の指導 | 第二章 受け身の指導 |
| 第四章 教育の中の柔道 | 第三章 基本動作の指導 |
| 第五章 指導の工夫 | 第四章 トレーニング法の指導 |
| 第六章 少年規定の変遷と問題点 | 第五章 柔道の練習法 |
| 第七章 柔道の安全指導 | 第六章 投技の指導 |
| 第八章 東日本大震災への講道館の対応 | 第七章 固技の指導 |

A5判・並製・DVD付・414頁・本体2400円十税



編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

平成30年度中学校武道授業（相撲）指導法研究事業 焼津市の相撲授業を視察



全員で塵浄水の練習

平成30年度中学校武道授業（相撲）指導法研究事業（主催Ⅱ日本武道館・日本相撲連盟・日本武道協議会、後援Ⅱスポーツ庁・静岡県教育委員会・焼津市教育委員会）は6月18日・19日、静岡県焼津市立港中学校で研究者が集まって行われた。本事業は今年度2回の実施を予定している。1回目の今回は授業視察と、全国相撲指導者研修会の内容検討を中心に行われた。

■1日目（6月18日）

▽開講式

はじめに安井和男日本相撲連盟専務理事が「焼津市は名選手を多く輩出し、女子の世界チャンピオンを3名出すなど、女子の育成に関して全国一番です。今回は授業視察を行い、どのように全国相撲指導者研修会に生かしていくかが肝になります。実りのある研究事業にしたい」と挨拶を行った。

次に、松尾貴之日本武道館振興課長が挨拶に立ち、「相撲は誰もが見たことのある、なじみ深い競技です。相撲経験のない先生に対して、

いかに関心を高めていくかが課題です。授業視察、研究により、相撲授業が充実できるよう、日本武道館も力を尽くしていきたいと思えます」と述べた。

▽検討協議①—1

焼津市の相撲について

開講式の後、下村勝彦研究者より焼津市の歴史と相撲の現状について説明があった。焼津市は明治時代から漁業が盛んで、市民には漁師気質が強くある。漁師は浜で網を揚げながら、暇があると相撲を取っていたことが、相撲が地域に根付いた理由の一つと考えられる。

焼津市内の中学校では9校のうち5校が相撲授業や相撲教室を行っている。相撲授業を行った先生が、異動先でも取り入れ、静岡県内に広がっている。タブレットを活用し、生徒が主体的に取り組む授業を行うなど、工夫した授業展開も見られる。また、年に1回、市内の小学生を対象とした相撲大会の開催や、保育園や幼稚園での指導や大会の開催など、子供たちへの相撲の普及に力を入れている。相撲は費用負担が少な



中学校武道授業（相撲）指導法研究事業研究者

後列左から

吉村 登 日本相撲連盟主事
村田安啓 研究者
堀内 弥 研究者
安藤 均 研究者
上村裕一 研究者

前列左から

浦嶋三郎 研究者（日本相撲連盟常務理事）
安井和男 研究者（日本相撲連盟専務理事）
松尾貴之 日本武道館振興課長
下村勝彦 研究者（静岡県相撲連盟会長）



中学校の教室を借りて検討協議

いことや、行政の理解が得られやすいことから、静岡県では普及が進んでいる。

▽検討協議①—2

全国相撲指導者研修会内容検討

11月に開催予定の全国相撲指導者研修会の内容検討を行った後、焼津市立港中学校の松浦みな美教諭より、翌日の授業内容について説明があった。同校では、武道が必修となった平成24年に相撲を採用したが、教員の異動により、相撲の授業は途絶えていた。

しかし、現役の相撲選手である松浦教諭が3年前に赴任したことをきっかけに、再び相撲を授業に取り入れることとなった。授業は体育館で体操マット・簡易まわしを使って行っている。

■2日目（6月19日）

▽授業視察

視察した授業は2コマ計2時間で、どちらも2年生（各27名）の8時間授業のうち4時間目であった。半分の生徒は1年次に相撲授業を経

験しており、半分は初心者である。本時は相手のバランスを崩す動きである上手出し投げを練習し、相手の崩し方を知ることが課題とした。

準備運動の後、相撲の基本動作である四股、塵浄水、すり足、蹲踞、受け身を行った。その後、上手出し投げの見本を動画で確認。また、大相撲での上手出し投げの動画も紹介した。本時の上手出し投げは、一人が右手を相手の肩に置き、もう一人が左手で相手のひじをつかみ、他方の手はまわしを持つ。右手を肩に置く人が右足を引きながら、左手を押し出して相手を崩す技として指導した。

2人一組での技の練習では、松浦教諭より互いに力を入れることが、うまくいくポイントとの指摘があった。6つのグループに分かれ、2人が技を練習し、残りの人はどうしたらうまく崩せるのか、不利な体勢とはどんなときなのか、などの気付きをアドバイスし合った。練習の途中でコツをつかんだ生徒がいれば、全員を集めて披露した。中には松浦教諭を相手に技を仕掛けることを希望する生徒もあり、生徒たちの相撲授



松浦教諭に習得した技を
積極的に仕掛ける生徒



ゆりかご受け身で
安全指導を徹底

業に対する積極的な姿勢が見受けられた。授業の最後には、どんなときに技がうまくかけられたかについて生徒が「相手が体重をかけてきたときに引く」「軸足をコンパスのように回す」「膝を曲げて姿勢を低くする」と気付いたことを発表した。

▽検討協議②

相撲授業の振り返り

授業視察終了後、授業の振り返りを行った。

○浦嶋三郎研究者

マットの取っ手が出ていたが、生徒が自主的に直しており、安全性に配慮していた。また、生徒が互いに助言する様子が多く見られた。

○桑森真介研究者

教員は安全面について常にリスクを背負っていることを忘れず、万が一事故が起こったときにも十分説明ができるよう、配慮が必要である。

○安藤均研究者

ゆりかごの受け身の練習は繰り返していることで、転倒の際の危険回避につながる。また、上手出し投げは横に崩す動きであるため頭を打つ危険性が少なく、安全な指導ができる。

○堀内弥研究者

塵浄水で女子生徒も恥ずかしがらずにしっかりとできていた。礼法について、技の練習で礼を一回一回行うのは時間のロスになる。どのタイミングで礼をさせるのか工夫が必要だろう。

○上村裕一研究者

私は中腰を意識させた相撲授業を行っているが、中腰は生徒が苦痛に感じるため、バランスの崩し合いを意識させ実施している松浦教諭の授業は大変参考になった。

○村田安啓研究者

大相撲の動画が、生徒の興味を引き出すのにうまく使われていた。手本となるスロー動画は生徒がわからなくなったときにすぐに見られるよう、授業中流したままにできるとよい効果的である。

▽検討協議③

全国相撲指導者研修会内容検討

今回の授業視察を踏まえ、安井研究者から研修会に向け、次のように発言があった。

「過去4回実施し、内容について継続的に実施するものと段階的にレベ

好評発売中

日本倫理思想史研究の第一人者がわかりやすく説いた、武士道書の決定版。

武士道に学ぶ

皇學館大学教授

菅野 覚明 著

四六判・上製・三四四頁・本体二四〇〇円＋税

目次

- 第一章 武士道の大意
- 第二章 武士の流儀
- 第三章 実力世界のリーダーシップ
- 第四章 宗教的精神
- 第五章 仁義、忠孝
- 第六章 家族観、教育観
- 第七章 武士道と現代

◎ ご注文・お問い合わせ ◎

公益財団法人日本武道館 出版広報課

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3

Tel 03-3216-5147 Fax 03-3216-5158

http://www.nipponbudokan.or.jp



映像資料で技のイメージ作り



相手のバランスを崩す練習



学習ノートで授業を振り返る

▽閉講式

最後に閉講式を行い、全日程を終了した。

ルアップさせる必要のあるものと課題がはっきりした。安全に実施することはもちろん大切だが、生徒の主体的活動を中心に生徒間のコミュニケーションが取りやすく、楽しい授業が展開できる内容を提示していく。また、全国で行われている相撲授業の実践例について、発表の時間を設け、現場指導で悩んでいる教員に対し、課題解決に向けたアドバイスをしていくことが大切である」

好評発売中

絵と文中村麻美（なかむらまみ）

F4判・上製・98頁・定価（本体2700円＋税）

伝えたい日本のこころ



中村麻美（なかむらまみ）画家・挿画家。
三重県津市生まれ。県立津西高校、津田塾大
学卒。大学在学中、日本画教室（田中峰雪氏
に師事）にて作画の基礎を学ぶ。英語個人教
授業、第十八代ミス日本グランプリ、NHK
BSニュースキャスター、絵本翻訳業を経て、
絵画を志す。大和草、茶花などを題材とした
日本画の本画を制作し、書籍、雑誌、新聞、
テレビ番組などで歴史もの、武人画、創業者
などの挿画を手がける。また、原作新聞小説

挿画を描いたNHK大河ドラマ『天地人』放映の平成十九年以降は、歴史上の人物の本画作品制作にも新境地を開いている。
代表作に『天地人丸紋絵巻』（兼統お船ミュージアム所蔵）、「斎王」（三重県立斎宮歴史博物館所蔵）など。

月刊「武道」の美しいカラー表紙絵の中から45点を精選。岩絵具で描いた日本画と解説文で「日本のこころ」をお届けします。

「ひとに愛されたい、必要とされたい、社会をよくするため役立ちたい。よき人間でありたい、そしてみんなが幸せであってほしい」——こうした万国共通の願い、祈りを育て、磨くためにも、確かな手がかりとなるすばらしい逸話ばかりです。（本書「あとがき」より）

目次

- 一 かしこい小僧さん
- 二 ひよどり越え
- 三 天の石屋戸
- 四 巖流島の決闘
- 五 太田道灌と少女の歌
- 六 三本の矢の教え
- 七 山中鹿介―我に七難八苦を与えたまえ
- 八 良寛さまと菊
- 九 民を慈しむ仁徳天皇
- 十 中江藤樹―母への薬
- 十一 夫の危機を救う弟橘媛
- 十二 良子斎王―別れの御櫛
- 十三 桜井駅の別れ
- 十四 八俣の大蛇
- 十五 川中島の戦い―謙信と信玄
- 十六 紅梅内侍と鶯の宿
- 十七 新羅三郎義光―笙の秘曲を授ける
- 十八 小松姫―夫の居城を守りぬく
- 十九 青の洞門
- 二十 鍋島直茂と接ぎ木
- 二十一 小林虎三郎―米百俵の精神
- 二十二 島津義弘―関ヶ原敵中突破
- 二十三 光明皇后―千人のからだを洗う
- 二十四 城戸俊三―勝利を捨てて愛馬を救う
- 二十五 松坂の一夜
- 二十六 柳に飛びつく蛙
- 二十七 称名寺『青葉の楓』
- 二十八 神武天皇ご東征
- 二十九 本多忠朝とサンフランシスコ号
- 三十 つるべの朝顔
- 三十一 鉢中兼山―海に捨てたはまぐり
- 三十二 野の木
- 三十三 因幡の白うさぎ
- 三十四 堪忍のわび証文
- 三十五 橘曙寛『独楽吟』
- 三十六 南総里見八犬伝
- 三十七 吉田松陰の志
- 三十八 鳥居強右衛門の勇氣
- 三十九 明智光春―誉れの湖水渡り
- 四十 赤穂義士の討ち入り
- 四十一 頼朝を助けた梶原景時
- 四十二 真田幸村―大坂の陣
- 四十三 天照大御神と美し国・伊勢
- 四十四 和田勇―祖国にオリンピックを招致
- 四十五 長岡花火『白菊』

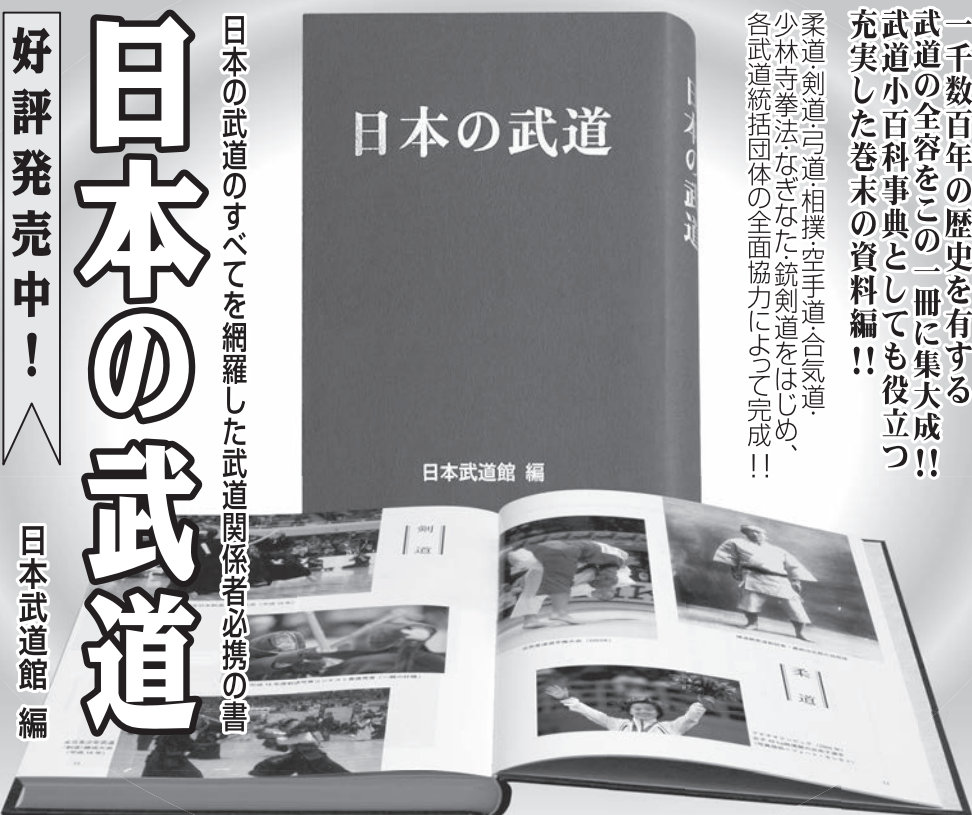


編集・発行 公益財団法人日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158



日本の武道

日本武道館 編

好評発売中!

日本武道館 編

日本の武道

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書

一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・
少林寺拳法などなれた銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!

(B5判・上製・箱入・526頁)

《目次》

序章

刊行の辞：塩川正十郎 日本武道館・日本武道協議会会長
刊行にあたって：松永 光 日本武道館理事長
武道のすすめ：養老孟司 東京大学名誉教授
武道憲章（武道憲章）（武道憲章英訳文）（こども武道憲章）
カラー口絵（日本武道館 9 武道 10 日武協 30 年のあゆみ）

第1章 日本の武道

第1節 日本の武道…………… 杉江正敏 大阪大学教授
第2節 武士道から武道へ…………… 菅野覚明 東京大学大学院教授
第3節 武道の近代化…………… 嘉納治五郎師範の教え：村田直樹 講道館図書資料部長
第4節 武道の魅力…………… 大保木輝雄 埼玉大学教授

第5節 学校武道の歴史…………… 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道の教育力…………… 菅野 純 早稲田大学教授
第7節 日本武道館…………… (財)日本武道館

第2章 日本の古武道

第1節 日本の古武道…………… 横瀬知行 古流武術研究者
第2節 古武道の技と心……………

第3章 現代の武道

第1節 柔道…………… (財)全日本柔道連盟
第2節 剣道…………… (財)全日本剣道連盟
第3節 弓道…………… (財)全日本弓道連盟
第4節 相撲…………… (財)日本相撲連盟
第5節 空手道…………… (財)全日本空手道連盟
第6節 合気道…………… (財)合気道連盟
第7節 少林寺拳法…………… (財)少林寺拳法連盟
第8節 なぎなた…………… (財)全日本なぎなた連盟
第9節 銃剣道…………… (社)全日本銃剣道連盟

第4章 組織・研究機関

第1節 日本武道協議会……………
第2節 全国都道府県立武道館協議会……………
第3節 日本武道学会……………
第4節 日本古武道協会……………
第5節 武道学科等設置大学…………… ① 国際武道大学 ② 国士館大学
③ 東海大学 ④ 日本体育大学 ⑤ 鹿屋体育大学 ⑥ 中京大学
⑦ 天理大学 ⑧ 筑波大学

第5章 資料編

第1節 役員名簿・組織図……………
第2節 日本武道協議会武道功労者一覧……………
第3節 全日本選手権大会優勝者一覧……………
第4節 年表「武道・近代百四十年の歩み」中村民雄 福島大学教授
第5節 学校体育における武道の変遷 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道主要参考図書……………

(現職・法人名は刊行時)

編集・発行 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページ <http://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ!

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158



月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。